

ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
(以下「ディズニー」という)
第十三回ディズニー・チャンネル放送番組審議会
議事録

開催日時 : 2009年11月19日(水) 15:30~17:00
開催場所 : 東京都港区麻布台 2-4-5
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社
ウォルト・ディズニー・テレビジョン・インターナ
ショナル ジャパン
スタジオ・ディズニー会議室

在任審議委員数 : 7
出席審議委員数 : 5
出席審議委員氏名 : 加藤 諦三
木下 美子
中川 真弥
柳生 純麿
湯川 れい子

その他、ディズニ : アイリーン・ハンベルガー
ーからの出席者 (プログラミング・シニアマネージャー／編成部)
待鳥 雅之
(コンプライアンス・スーパーバイザー／編成部)

- 議案**
- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について
 - 2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について
(下記の番組については、本会議に先立ち、各審議委員にDVDを送付した。)
 - ・「きんきゅうしゅつどう隊 OS0」
 - ・「ジョナス」
 - ・「スティッチ! いたずらエイリアンの大冒険」／「カンフードラゴン
ブリーク・リー」(「スティッチ!」のミニコーナー)
 - ・「ジーク アンド ルーサー」

審議の概要

- 1) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD番組編成について
ディズニー・チャンネル及びディズニーXDの番組編成・改編について説明が
され、下記のとおり意見交換が行われた。
(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の

回答)

- ジョナスの人気は上がってきているのか？
- 反応は良い。海外の熱狂ぶり比べると、日本ではこれからというところ。
- 見ているのは高校生か？
- 中学生以上が見ている。
- ディズニーランド等でグッズが買えるとさらに人気が出るケースもある
(マイリー等)

- 「ハイスクール・ミュージカル」は定着しているか？
- 日本でもかなり定着している。
- ケニー・オルテガ監督がマイケルの影響で注目されてきたことでまた起用
できたら良いのに。

- 「リロ&スティッチ」は一日を通して何度か放送されているようだが、そ
れだけ影響力があるということか？
- 「スティッチ！」との相乗効果で、上がってきている。

- 「フィニアスとファーブ」はリロ&スティッチよりもさらに好調。
- 非常に驚きだ。
- 世界中で強く、放送し始めてから1年以上経つ。
- 所謂、伝統的なディズニーらしさがあるわけではないが、男女問わず受け
ている作品。

2) ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について

ディズニー・チャンネル及びディズニーXD放送番組について各委員より意見
交換が行われた。

(以下●印 審議委員からの意見及び質問、○印 ディズニーからの出席者の
回答)

『きんきゅうしゅつどう隊OSO』について：

- ストーリーとしては、OSOはいつもウルフィという教官からトレーニング
を受けており、エージェントとして必要な技術を学んでいるが、その最
中に、OSOの上司であるミスター・ドスから、困っている子どもを助け
るようにと指令を受ける。
指令を受けたOSOは、ポーパイロット(コンピューター)から3つのヒ

ントを得て、子どもたちが抱える問題をその子と一緒に解決して、任務完了メダルをもらう、という作りになっている。

子どもたちが助けを求めているミッションの内容は、日常生活の中でごくありふれたものを扱っている。

- ターゲットは？
- 3～4歳を想定している。
- それくらいの小さい子供を育てているお母さんたちに教えてあげるような作りの番組だと思う。
- すぐ答えを出すのではなく、一緒に考えようという形でアドバイスを与えている。
- OSOが何となくパンダに見えなくもないが、英語で内容を聞いていても優しい感じがする。

『ジョナス』について：

- ターゲット年齢層は、ロック・スターになりたいと憧れる6～14歳向け。スーパースターの彼らも、ステージを降りると皆と変わらない普通の男の子であるという設定。
- とても贅沢な番組。
- アイドルが受けるのは8歳くらいからだが、ジョナスなら20歳代の女性も見そうだ。
- マイリーにしてもジョナスにしても、海外でとても人気が出てしまっているから、日本に来てもらうとしたらスケジュールの調整が難しそうに思える。
- 女の子に関して言うと、日本の女の子は、アメリカの女の子よりも非常に先鋭的におしゃれ過ぎて真似ができないかもしれない。
- でもマイリーは可愛いので、うちの子は真似をしている。

『スティッチ！ いたずらエイリアンの大冒険』／『カンフードラゴン プリーク・リー』(スティッチ！のミニ・コーナー) について：

- ターゲット層が前回より少々高めの8歳～12歳の子供たちに合わせていて、全体的にストーリー展開のテンポも速めになっている。今回からは、ユウナを困らせる(尚且つ彼女の成長につながる)キャラクターや女の子のお友達としてサエちゃんという女の子も登場する。
- すっかり日本のアニメというイメージが定着したように見える。
- 色の使い方にしても、綺麗な作品だ。
- 見ていて親近感がわく。

- ハワイのような南国の島、少しアニミズム（全てのものには霊が宿っているという考え）が残っているのがさらに出てきて良いかも。
- ミニコーナーである「カンフードラゴン プリーク・リー」の主演・番組ホストはプリークリー。この番組内では、ブルース・リーを模して、「プリーク・リー」と名乗る。
舞台はユウナのカラテ道場で、毎回エイリアンが、彼への挑戦者として登場。プリークリーは大袈裟な構えの妙なカンフーで挑戦者を迎え撃つが、大体いつもすぐやられるか、邪魔が入って試合にならなくなってしまふ。

『ジーク アンド ルーサー』について：

- 6歳～14歳の男の子向けシリーズ。
二人のごく普通の男の子が世界的に有名なスケートボーダーになることを目指すというストーリー。少々格好良くない系の男の子二人組。
作品に含まれるテーマとしては、友情、ユーモア、アクション、何かを成し遂げる、ということなどが含まれる。
- 初めて米国に行ったとき、子どもたちが自分でお金を稼ぐというのを見て随分日本と違うなと思った。
- 全体的に大人の登場が少ない作りになっている。

その他：

『スポーツ・ドリームズ』について：

(会議中に本作品を試写)

- スポーツというものの自体、そもそも今までメインとしては扱ってこなかったジャンル。Jetix から XD に生まれ変わったこともあり、新たに少しずつ広げ始めた。アスリートに実際会う機会を与えて、子どもたちの夢を叶えたい、という趣旨で制作された。視聴する子どもたちも共感できるようなものを作りたかった。
- 非常に良い。
- スポーツ以外に、例えば音楽などでもこのようなものが作れるのではないだろうか。
- こういう頑張ってきた人たちの言葉の説得力は絶大だ。
- この日本の子どもたちが感じる閉塞感を打ち破るものになってほしい。

以上をもって本会議は、議案の審議を終了したので17:00に閉会した。

上記の議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、本議事録を作成する。